

# 森泉荘だより

創刊号  
S. 62. 7. 31

## 森泉荘だより

### 発行にあたって

富田 四朗

森泉荘が開設されて早や、五年目を迎えております。

「施設だより」を発刊するには、若干遅すぎた感もありますが、第一号を発行することができました。申すまでもなく、この「たより」は、施設における利用者の生活状況等、家族はもちろんのこと、地域の方にお知らせしながら、「利用者は家族の一員であり、地域住民の一人である」といってご理解をいただきながら、施設の在り方について今後「助言」と「協力をいただく

れば、幸せであります。施設としては、利用者の処遇を高めるための努力は当然であります。在宅のご老人で、ご不自由を感じている方の為に一時的に、お世話する制度もありますので、それぞれ市町村役場を通して相談いただければ、お役に立ちたいと職員一同考えております。どうぞ、気楽にこの便りを活用していただくようご期待申し上げ、「施設だより」発刊のご挨拶といたします。

(森泉荘 施設長)

## ★★森泉荘 誕生会★★

### ～家族からのお祝いの言葉

#### 手紙に感動／涙

♡ひまこより九〇才のおばあちゃんへ♡

『生まれてから九〇年、とても長い時間です。その間に、いろいろな歴史が過ぎていきました。』

明治生まれのひいばあさん  
お誕生日おめでとう！  
これからも、元気で長生きしてください。』

♡娘より母へ♡

『バアサン タンジョウビ オメデトウ。ミナサンノ オカゲデ、ヨカツタネ。ミナサンノコト、ヨクキイテ、マタ ミンナト、ナカヨ

森泉荘では、毎月その月の誕生者を誕生会を開催してお祝いしておりますが、今年の四月からは、ご家族様からのお祝いの言葉を誕生会の席上でいただくか、ご来荘できない場合は、お手紙等でお祝いの言葉をいただきます。誕生会の席上でご紹介させていただきます。六月の誕生会では、二組のご家族の方が見えられ、直接誕生会の席上でお祝いのお言葉をいただきました。それ以外のご家族の方からも、お手紙やお葉書きなどをいただいでご紹介させていただきます。その中から、二、三ご紹介致します。

クシテ、ナガイキシテクタサ  
イ。』

ご挨拶していただいたときや  
お手紙をご紹介させていただい  
たときは、誕生者のみならず、  
みんな目に涙をうかべたり感激  
して居られました。誕生者の中  
には、「うちの孫が・・・」とか  
「娘が・・・」「息子が・・・」  
「嫁が・・・」と喜びご家族の  
ことなど職員や御仲間に話とお  
られるのをみて「これからも、  
ずっと続けねば」とおもってお  
ります。

誕生会は特別な事情がないか  
ぎり毎月第四火曜日の一一時半  
から一時間の予定で行なわれま  
す。おじいさん、おばあさんが  
お誕生者であるときはもちろん  
のこと、そうでないときも「来  
荘くださいまして、お祝いでし  
ただければとおもいます。  
また、「うちでは字が読めな  
いから」とお考えなさらずにお  
たよりくだされば、職員がかわつ  
てお読みしたいと思いますので

どうかご連絡ください。

誕生者のご家族には、誕生会  
近時にお電話にてご連絡させ  
ていただきます。\*

### 『森泉在日記』

《四月 一日》 開設記念式典

四四名参加。昼食のお  
すし、記念のおまんじゅ  
うは好評。

《四月 七日》 県知事、県議

会議員不在者有投票。

四四名参加。動ける人  
はホールにて、寝たき  
りの人はベットで実施  
意志表示出来ない人は  
おこないませんでした。

《四月 二八日》 誕生会。

家族からのお祝いの言  
葉好評。誕生会にあわ  
せて、三月の大相撲星  
取大会表彰。  
優勝 新屋 イクさん

《五月 一日》 観桜会。

鷹巣町中央公園にて実  
施。参加一三名。

《五月 一九日》 避難訓練。

伝達・避難誘導・救護  
消火栓操作訓練・消火  
器操作訓練。

《五月 二六日》 誕生会。

《六月 二日》 第一〇回ゲ

ム大会。  
参加三七名。特にパン  
食い競争が人気。

《六月 四日》 神成婦人会慰

問。  
参加四三名。歌四曲、  
踊り六曲披露。お年寄

《六月 三日》 誕生会。

参加四八名。誕生者の  
家族二組来荘。お祝い  
の言葉をいただく。  
大相撲五月場所星取り  
大会表彰。  
優勝 新屋 イク

以上、四月から六月までの三ヶ月間のおもな行事です。これ以外にも、個人リハビリや総合リハビリ（主としてゲーム）などを実施しています。

### 行 事 予 定

- 8月○ 盆帰省、誕生会、納涼踊り・花火大会
- 9月○ 敬老会、十五夜、大相撲星取り大会、誕生会
- 10月○ 紅葉狩りドライブ、避難訓練、誕生会
- 11月○ 第11回ゲーム大会、大相撲星取り大会、誕生会

## 私のおいたち

土橋 よしゑ

私は、北海道京極村で、土橋義信の次女として生まれ、農作業をしており、牛十頭、馬三頭置き、毎日が忙しく、勉強する暇もなく、また、学校にいくのに、子供を背負って行かなければならない状態でした。

学校から帰れば、畑に出て手伝いをするやら、兄弟九人で面白い事やら。子供のことからけんかしたり、色々でした。

将来独立したいと思い、思いついたのが、昔で言えば髪結いでした。

住み込みで、弟子にはいりました。この時から、私の苦労が始まりました。

掃除するにも、今のよつに、ゴム手袋もなく、素手であかきれになるまで……。それで、もぐち一つこぼさず頑張りました。

親に反対されて出たものだから、帰りたくとも帰ることが出来ず、つらい、淋しい毎日でした。

こんな苦しい中でどうにか自分の努力がみのり、国家試験にパスしました。

苦労して得ただけに、そのときの喜びは、口では表わす事が出来ない程でした。

それから家に帰り、「店を出してほしい」と父に頼みました

が、「その若さで（当時二十三才）店をだしたって……。もう少し腕を磨きなさい」と心のこもった答えが返ってきました。「成程」と思いました。

それから二年、念願がかない、店を出してもらいました。弟子一人から出発。さいわいに、炭坑が盛んであった為に、成功しました。毎日が忙しく、必死でした。

自分の腕も、世間に認められ、客足も増え、弟子もひとりから六人に増やし、皆で力を合わせ頑張りました。

昭和二年、大火で全焼。目の前が真っ暗でした。「やっとここまで来たのに」泣いても泣き切れない思いでした。でも、負けてはいられません。それからまた、髪結いとして再出発。持病である、ぼうこう炎に悩みながらも、五八才まで頑張りました。

昭和四九年、腎臓の手術をし

ました。手術後の経過が思わしくなく、以後歩けなくなり……。これが私の致命症でした。

「もう一度、この足で歩いてみたい」元氣な人を見るときにこの思いは強くなりました。しかし、いくら頑張りても体がいうことを聞いてくれないのです。でも、私は私なりに、歩くまでとはいわなくとも、せめて車椅子にでも乗れるよう毎日努力しています。

—X—X—

▽これは、土橋さんの昭和六〇年九月の作品です。施設内放送で一度は職員が朗読し一度は土橋さん本人に紹介していただきました。聞いているお年寄りに感動と共感を与えました。

なお、現在は一人で車椅子には乗れませんが、乗ってしまえばお一人で操作されます。

# 善意

## 厚く御礼申し上げます

昭和六二年四月〜七月

- ◆ 近藤 祐太郎
- ◆ 米倉 甚逸
- ◆ 戸嶋 美弥子
- ◆ 佐藤 クニ
- ◆ 神成 土建(株)
- ◆ 柴田 淳蔵
- ◆ 第一興商(株)

- ◆ 小笠原 キエ
- ◆ 藤本 一郎
- ◆ 奈良 フジエ
- ◆ 簾内 通子
- ◆ 金 洋子
- ◆ 九島 ミエ
- ◆ 秋元 昌貴
- ◆ 鷹巣家政婦紹介所
- ◆ 西根留蔵・家族
- ◆ 成田 佐七郎

敬称は略させて  
いただきました。

# 奉仕

六月二四日 神成婦人会

七月一四日 阿仁部美容師

組合

随時 簾内 通子

敬称は略させて  
いただきました。  
金 洋子

## 夏の帰省について

今年もお盆の時期が近ずいてまいりました。この「森泉荘だより」とともに、「帰省確認葉書」を同封しております。お手数でも8月4日ころまで必要事項をご記入のうえ、森泉荘まで返送ください。

お盆期間中に都合の悪い方は期間外でも施設としては対応できますので、ご家庭でご家族と過ごされる時間を持つていただきたいものだと考えております。

葉書の書き方ですが、午前中でしたら昼食前というようにお書きください。

帰省・帰荘にあたってはできるだけ、午前9時から午後5時30分までの間においでください。どうしてもこれ以外の時間になる場合は、葉書の備考欄に書くか電話でご連絡ください。  
☎ 0186-75-3406

# 編集後記

▼なんとか『創刊号』を編集しおわかりました。あれも載せたいこれも載せたいと考えばかりが先ほしり、もっとよい編集ができなかったものかと反省しきりです。

▼次回からは職員を考えていることや、ご家庭で役立つ情報なども提供したいと考えておりますが……。

▼ご家族の皆様も、「ごうしたら」とか、意見など、どんどんおよせください。施設に対するお叱りも大歓迎。

▼面会される方に一言。  
できるだけ職員と話をしてください。特に食べ物をお持ちになったときは、健康面などからご注意していただくことも多々あります。

また、お年寄りのお金などについても遠慮なくお尋ねください。